東京旭川会
会報
ななかまど

第18・19合併号　平成10年（1998）1月22日発行
発行所　東京旭川会　〒163-1310
東京都新宿区西新宿6-5-1
新宿アイランドタワー10F
東京美装興業株式会社内
TEL.（03）5322-2725
編　集　東京旭川会広報委員会

回想の芝居小屋

大内秀夫

この歳になって、今も時折り夢に出てくる旭川。雪解け道、水溜まりに久しぶりの太陽が照り返し、向かいの合同タクシーが出入りするたびに太陽は粉々に飛び散る。乾いた道の馬糞も春風と一緒に舞い上がってゆく。

それでも、春が来たうれしさは格別だ。雪道で汚れ切ったゴム長靴から、下駄に履きかえる。鼻緒の冷たい感触が今も蘇る。

その春も、あっという間、六月の招魂祭、七月の上川神社祭には、一気に夏姿。学生帽の上に白い布を被せ、女性は袷から単衣になる。

今は祭ももっと多いのかも知れないが、私が美校へ入るため上京した昭和三十年代頃までは、これが旭川の二大祭だったようだ。

現在のイベントと違い、関係者だけじゃなく、おとなも子どもも、いや町中一体感があった。宵宮から本祭、後祭とこの日ばかりは子どもの宵っぱりも大目にみられ、銭湯上りの首に天花粉を叩かれ下ろし立ての下駄の鼻緒を気にしながら出掛けた。

生まれ育った三條六丁目の店の前にずらりと見世物小屋が並び、泥絵具の看板をあかず眺め歩いた。オートバイの樽の壁乗りのキナ臭い音、木暮サーカスの獣の匂い、ハッカパイプ、味噌田楽、綿あめ……今も憶えている。

ことに、人形芝居の小屋が好きで、今の芝居好き、歌舞伎の外題を憶えたのもこの頃からだった。それは現在の自分の仕事にも大きな影響を与えてくれている。人形芝居の幕間に踊りや一幕ものがあり、ひとさらいにさらわれた子だよと噂の、ちょっと足をひきずりながら踊るお染久松に魅せられ、世の中にこんな美しい女の子がいたのか、と淡い恋心を抱き、しょっちゅう見に行った。

祭が終わった翌日、旅立ちの前に一目みたいと学校から急いで帰り、小屋跡に行くと、すっかり後かたづけが終わり、色の黒い汚れたモンペに裸足の女の子がひとり、荒縄を掃き集めていた。ちょっと足をひきずりながら。

（文とイラスト＝おううち・ひでお。旭川西高出身。美術家。「報知新聞」など東京のマスメディアを舞台に活躍。86年度NTTタウン誌大賞を受賞。月刊「うえの」編集長、多摩サッカー会長）

第21回東京旭川会
総会・懇親会開かれる

菊薫る平成九年の秋、十月三十一日午後六時から西新宿の京王プラザホテル「扇の間」で第二十一回東京旭川会の総会・懇親会が盛大に開催されました。

会場に入ると、まばゆいばかりのシャンデリア、壁面に旭川や近郊の町、航空三社のポスターが貼られ、雪上スポーツのビデオが放映され、さらに昨年好評であった旭川ラーメンの屋台などが並び、故郷に温かく迎え入れる雰囲気がいっぱい。

【総会】司会は尾崎靖亮幹事。「お晩でございます」で始まる開会宣言。会則に則り八木祐四郎会長が議長となり、議事審査に入りました。

第一号議案。桑本平八事務局長が平成八年度事業報告。決算報告を別紙資料により報告された。事業報告のなかで、第十一回郷土訪問の旅は会員の強い要望で実施されました。道内旅行も層雲峡から然別湖、富良野、美瑛へと好天に恵まれて大変良い旅行でした。と付け加えられました。

会計報告では、現在会員数が五百四十八人。この三年間会費未納の会員と連絡のない者を削除したとのこと。続いて植木宏昌監事より財務監査、事務処理全般が適正かつ正確に処理されていると報告。全員異議なく原案通り承認された。

第二号議案は平成九年度事業計画別紙のとおり。ただ、会報『ななかまど』発行について、編集担当者が健康を害され発行が遅れているが、今回の総会が終わって合併号をなるべく早く発行したいと説明をされた。予算案では年会費は五〇％収入あり、これを七五％

会場は乾杯へ。音頭をとる岡崎信義市議会議長（右端）と山川久明旭川商工会議所会頭（左端）ら。

いま売り出し中の地元出身歌手

矢野裕子さん、絶唱!!

第21回総会・懇親会にいま売り出し中の歌手、矢野裕子さんにボランティア出演をお願いした。持ち歌の「バラの香水」などを歌って懇親パーティーに花をそえた。

矢野さんは昭和39年、北海道中川町生まれ。旭川北高卒、昭和音大の声楽科、ピアノ科卒。昭和62年、テイチクから「海峡航路」をひっさげてデビュー。最初は本名どおり「高村理香」を名乗ったが、平成7年、矢野竜子と改名した。ふるさと旭川の文化会館では矢野裕子の芸名で出演した。

一流の歌手として定着するには苦しい長丁場を駆けぬけなければならない。しかも当たるかどうかは多分に運もつきまとう。それだけに在東京の旭川人の限りない支援が必要。出演希望のむきは所属する事務所「株式会社タケノオフィース」電話（3490）2290にご連絡を。

出演料は交渉してください。写真は東京旭川会のステージで歌う矢野裕子さん。

総会参加者（敬称略）

秋山文雄、荒井弓子、浅利豪、坂井一瓏、伊集院実、伊塚清、伊東喜久子、飯田昭宣、石倉末松、氏家一衛、梅原音二、植木宏昌、海老沢美智子、小川勝也、小川礼子、大屋道夫、小西幸男、尾崎靖亮、大居正和、大城栄子、大島栄一、荻野京子、折登昭三、大沢輝子、織田典子、加藤辰雄、笠原貞夫、河村尚之、河西春美、加藤文哉、加藤桂子、片貝美雄、亀井歓一、片山重毅、木村勝、菊田和夫、桑本平八、国沢正保、窪田敬昭、鴻上修一、後藤直容、小柳公二、坂上博二、佐野雄二、佐々木雄一、佐藤貢、佐々木憲一、新国園枝、島田実、島田瑞子、白倉伸也、島田嘉明、島田ミエ子、須藤智恵子、鈴木とよこ、鈴木毅、杉山恵子、宗方裕、宗方由美子、田村昌士、武田陽子、高野哲男、高橋正夫、高橋文子、高橋英治、田中幹夫、竹田薫、田中國史、滝幸子、土屋初代、寺田英子、土井磨智子、土橋明治、中村泰敏、中村忠雄、中尾美恵子、中塚晃介、西田育子、西木戸幸夫、野作雅章、花輪元治、林秀一、長谷川健一、花輪音三、坂東勝利、坂東幸子、原公朗、坂東宗光、橋本裕子、蓮本池鶴子、引地康博、広野貴之、広瀬兵一、引地昌枝、藤原浩司、福原博子、深堀保法、堀川和延、細岡重信、細谷幸治、堀田出紀、前木誠、松原利治、松原益子、松原蔦、柳沢滋、柳沢均、松田勇三、牧野哲雄、南栄二、三宅一郎、三浦規、御手洗正夫、森真弓、八木祐四郎、矢野正康、安井規雄、矢口宏規、山村晃、山本正純、山川喜和子、横川正市、吉川昌伸、吉田友之、吉崎与一、横峯昇、横山秀夫、渡辺次郎。

に上げたい。促進をお願いしたいと要望されました。その他の予算は例年通り。これも異議なく承認。

第三号議案は役員改選の件、会場より声あり、「八木会長には、いろいろとご多忙のところ、会のためご尽力頂き感謝しております。さらに会の発展のために会長のご留任をお願いいたします」の声に満場の拍手。八木会長は快く次期会長を引き続き受けてくださった。事務局長、副会長、幹事の選任は会長に一任。六時十二分総会終了。

【懇親会】 司会が加藤桂子幹事に交代。菅原功一、美喜子旭川市長ご夫妻をはじめ来賓が入場。八木会長からご挨拶、「旭川市長をはじめ市の要職の方々をお迎えしての開催をうれしく思います。五百四十八人の会員ときちっとした体制のもとで、この会を続けていきたい。旭川という共通の話題を持って一年に一度集まるこの会を大切にしていきたい。十年間会長をやってきたが、引き続き会長として頑張ります。長野オリンピックも噛み合いの狂っているところがありますが、日夜努力しております。二十一世紀の子供たちに夢と感動を与えるためにぜひ成功させたい」と述べました。

菅原旭川市長は「お晩でございます。会長はじめ皆様、日頃陰に日向に旭川をご支援いただいていること大変うれしく、御礼申し上げます。ロシアから帰ってきたばかりですぐこちらへ出席しました。八木会長には会長としてご努力いただき、さらに長野オリンピックへのご尽力にも敬意を表します。伊藤みどりさんの聖火台点火など決まりました。長野オリンピックのご成功を心よりお祈りいたします。

十月二十四日、関西旭川会の第六回総会も盛大に行われました。旭川市はロシアのユジノサハリンスク市と友好都市になって三十周年を迎え、韓国の水原市（スゥウォォン）とは平成元年より姉妹都市になっており、その他、中国の哈爾濱（ハルピン）市とは平成七年より。古くは、昭和三十七年アメリカのブルーミント・ノーマル両市と姉妹都市になっています。地球は一つ、日本全体を視野に入れ、世界情勢を取り入れながらやっていきたい。国内では、高知県から橋本大二郎知事ご夫妻がデザインフェアに来旭。四国では旭川の家具を扱っており、木工クラフト関係の交流を持っています。さらに、観光協会どうし友好関係を結んでいる宮崎市からの来旭もありました。

これらの交流は旭川の発展につながるものと思います。お米も三大生産地を誇る旭川であり、ラーメンも全国的に有名になってきました。ベストスリーに入っています。大雪山、石狩川、草原の緑が輝く自然があり、観光人口も日々

▶八木会長（演壇の左）、矢野副会長（その左隣）、松原副会長（同）。

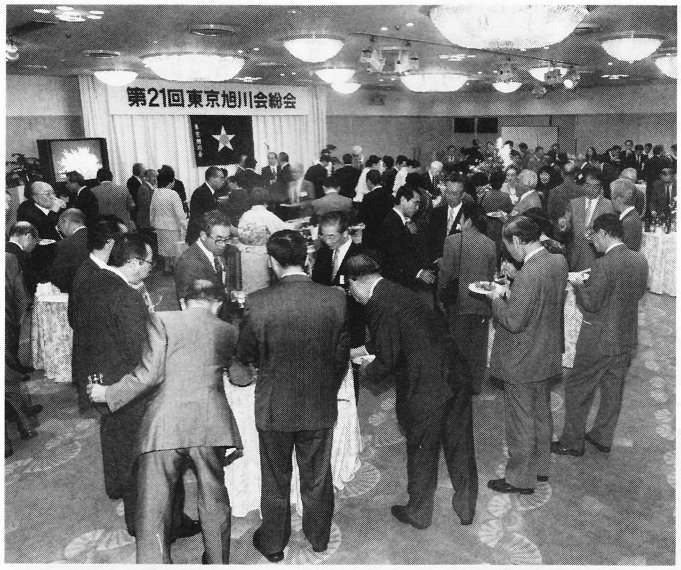
増えてきています。期待に応えるため、大いに地域に貢献していきたいと思います」と述べられた。

ここで、菅原市長に東京旭川会からの花束が伊東喜久子幹事より贈られた。ついで来賓紹介、で挨拶ののち、岡崎信義旭川市議会議長が乾杯の音頭をとり「私の顔が旭川生まれの顔です。東京旭川会の皆様のご活躍を祈り、皆様の益々のご健勝、そして一堂に会した皆様親しくご交誼ありますよう祈って、乾杯」と述べられました。

議事は以上で終わり、懇親パーティーに移りました。会場中央にしつらえられた和・洋・中華の料理に旭川のジャガイモ、カボチャも並びおいしそう。日本酒、ワイン、ウイスキーなどの飲み物もたっぷり。それぞれ懐かしい方々を見つけては話し合い、お互いの健康を喜びあいました。今回にアトラクションとして旭川北高出身の歌手、矢野裕子さんが「バラの香水」ほか数曲をステージで歌われ、会場が賑やかに盛り上がりました。お楽しみの抽選会は武田陽子、伊東喜久子両幹事の軽妙な司会で進行。今回は日本エアシステム、全日空に加えて日本航空の航空券が賞品に提供されました。会場の外では北海道の海産物の即売、市価より安いとあって買い求める人も多数ありました。

結びは、山川久明旭川商工会議所会頭の万歳三唱。また来年の再会を楽しみにしながら。出口では菅原旭川市長のお見送りをいただき、市長からのお土産を受けとって解散。会場には、まだ、懐かしい余韻が残っているようでした。

（須藤智恵子記）



総会のあと続いて懇親パーティーへ。

大当たり!!　旭川への航空券ですよ！　わがことのように喜ぶ武田陽子（右から２人目）、海老沢美智子（３人目）の各幹事ら。

〈ご協力・ご協賛〉

第21回総会・懇親会のため、次のとおり各方面からご協賛・ご協力をいただきました。

▽旭川市長▽市議会議長▽旭川商工会議所会頭▽旭川観光協会会長▽道北地域地場振興センター▽男山▽旭川ターミナルホテル▽札幌ビール▽合同酒精▽ニッカウヰスキー　▽十勝▽全日空▽日本エアシステム▽日航▽毎日新聞社▽日立電線▽今野醸造▽大心堂▽雷おこし▽佐賀商店▽薬日本堂▽本間不動産▽ダンケジャパン▽バイオソフィアインク▽八木祐四郎▽矢野正康▽大城栄子▽松原利治ら個人各氏。

懇親会ご出席者（順不同・敬称略）

来賓〔旭川市関係〕市長・菅原功一、市長夫人・菅原美喜子、市議会議長・岡崎信義、商工会議所会頭・山川久明、観光協会副会長・稲村健蔵、市長公室長・中屋利夫、市商工部長・佐藤俊一、市企画調整部長・阿部尚夫、市秘書課・和田英郎、市商工部・宮崎謙一、同・山脇謙治、市企画調整部・津田論一、市議会庶務課長・佐西邦広、商工会議所総務課長・佐藤和明、ダンケジャパン副社長・山下勝久。

〔在京関係〕北海道倶楽部・久々津寿男、山根昌武、北海道ふるさと会連合会・大島正義、全日空東京支店・林祐司、同青石俊勝、同岩東純子、同安岡留美子、同岩切美華、日本エアシステム東京支店・平山申孝、同工藤憲彰、日航・川渕晴久、同小林博、旭ダンケ・山本勝也。

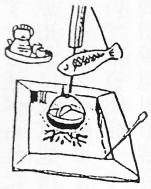
〔祝電〕衆議院議員・金田英行、参議院議員・菅野久光、旭川観光協会会長・金森耕造、関西旭川会会長・島影恒治。

東京旭川会―平成９年度予算（案）（平成９．９．１～10．８．31）

科目	平成８年度予算	平成８年度決算	平成９年度予算	摘要
収入の部				
繰入	607,935	607,935	600,686	
年会費	800,000	638,000	800,000	400名
懇親会費	2,000,000	1,990,000	1,900,000	出席190名
名簿代	0	1,000	60,000	
寄付金	200,000	315,000	200,000	
広告代	480,000	459,073	0	
雑収入	2,000	521	2,000	
収入計	4,089,935	4,011,529	3,562,686	
支出の部				
懇親会	2,000,000	3,079,987	1,900,000	
印刷費	500,000	33,037	500,000	
通信費	200,000	149,815	150,000	
会議費	100,000	48,674	50,000	
交際費	50,000	41,750	50,000	
事務費	20,000	45,880	10,000	
手数料	15,000	11,700	15,000	
雑費	10,000	0	5,000	
支出計	2,895,000	3,410,843	2,680,000	
繰越	1,194,935	600,686	882,686	
合計	4,089,935	4,011,529	3,562,686	

素晴らしきかな北の故郷

〈第11回旭川訪問の旅〉



東京とその周辺で生活する旭川出身者が1982年（昭和57年）から始めている郷土訪問旅行は、中休みも入ってことしは第11回目。「ぜひ再開を」という声に2年ぶりで開幕した。

◀旭川の新名所、大雪地ビール館前に勢ぞろい

この日、一九九七年（平成九年）の八月二十五日、羽田発のNAN機でわが東京旭川会の八木祐四郎会長を団長とする一行五十五人（うち二十四人が旅行参加）は一路、ふるさと旭川へ。むしむしする暑さの東京から飛んできて、さすが八月末ともなれば、わが旭川の青い空とすがすがしい大気は東京暮らしの私たちにとって何よりの贈りものである。

早速、旭川市の歓迎バスで歓迎会場の宮下通り十一丁目に昔のまま残る上川倉庫に昨年十一月オープンした「大雪地ビール館」に移り、市主催の歓迎昼食会に臨んだ。

主催者を代表して則末誠一助役が「故郷旭川を満喫していってください」と挨拶、一行は五種類の地ビールはじめ地もののソーセージ、ジャガイモなど料理を満喫して、旭川動物園へ行く組とホテル組に分かれた。

さわやかな風の中で飲んだ地ビールやジャガイモのグラタンやソーセージの美味しかったこと。

その後、希望者はバス二台に分乗し、日本最北端の動物園、ことし開設三十周年を迎えた旭川動物園へ向かった。

二條通りをまっすぐ進み、突き当たりである。日本ではここだけというシベリア豹もいる。白熊は繁殖日本一とか。また、八種類のフクロウ雄雌が一列に並ぶ。昼は見えないはずの目で見られているのが異様に思えた。

夜は午後六時から市内六條九丁目のグランド・ホテルで懇親夕食会へ。市側は菅原功一旭川市長はじめ、かつて旭川市東京事務所に勤務していた幹部の各氏がずらりと勢ぞろいした。

この日はとくに八木団長が長野冬期オリンピックを含め従来のオリンピックの裏話などを披露して会場をわかせた。

翌日はフリー。二十七日からいよいよ一泊二日ないし二泊三日の道内旅行へ。集合は午前九時、ターミナル・ホテル前。

参加者二十四人朝九時にバスで出発した。天気は良い。

行程はターミナルホテルから上川アイスパビリオン、銀河・流星の滝、黒岳ロープウエイ、層雲峡（昼食）、糠平、然別湖、然別温泉（泊）へ。

バスは旧市内を走り抜け、旭橋をわたって八キロの直線道路、旧第七師団あとを見ながら走った。この先に日本一の直線距離二九・二キロのまっすぐな道路もあるとか、さすが北海道だ。比布、愛別、上川町などそれぞれにきのこの里、イチゴの生産、アンガス牛の飼育など産業をおこしていた。

最初の見学は上川アイスパビリオン。摂氏零下二十度の厳冬体験ができる。

建物内は氷の回廊や小部屋でマイナス四十一度を体感できる場所

◀八木東京旭川会会長（左から3人目）らが菅原旭川市長（その右）を表敬訪問

●故郷への旅参加者（敬称略）

本間敏弘、関晃、松島勝次、藤原弘政、園城つる子、三浦久子、松尾実、阪本珪子、本間紀行、佐々木和子、杉本哲男、南栄二、南ヤス、高橋文子、清宮和子、伊藤千恵子、内田妙、富岡勇、富岡定子、須藤智恵子、武田陽子、寺田英子、山村晃、桑本平八、八木祐四郎、大城栄子、伊塚清、伊塚幸子、伊塚幸絵、伊塚清嗣、伊塚清華、福居浩一、福居千昭、稲葉忠、稲葉祥子、花輪元治、土井磨智子、池嶋久春、田中義憲、坂東幸子、坂東勝利、粕谷直、竹下朝一、中村忠雄、原公朗、那須秀昭、那須輝美、那須拓也、那須学、那須慧、竹原茂雄、竹原順子、竹原博、竹原美枝、竹原昭、半那良子、高橋素平（順不同）

《事務局日誌》

◎9月19日＝会計監査◎9月25日＝第1回幹事会◎11月6日＝第5回実行委員会◎11月9日＝第20回総会・懇親会◎平成9年1月31日＝第2回幹事会◎4月3日＝旅行委員会◎4月16日＝第2回旅行委員会◎5月14日＝第3回旅行委員会◎6月25日＝第4回旅行委員会◎8月20日＝企画委員会◎8月25日～28日＝第11回郷土訪問の旅

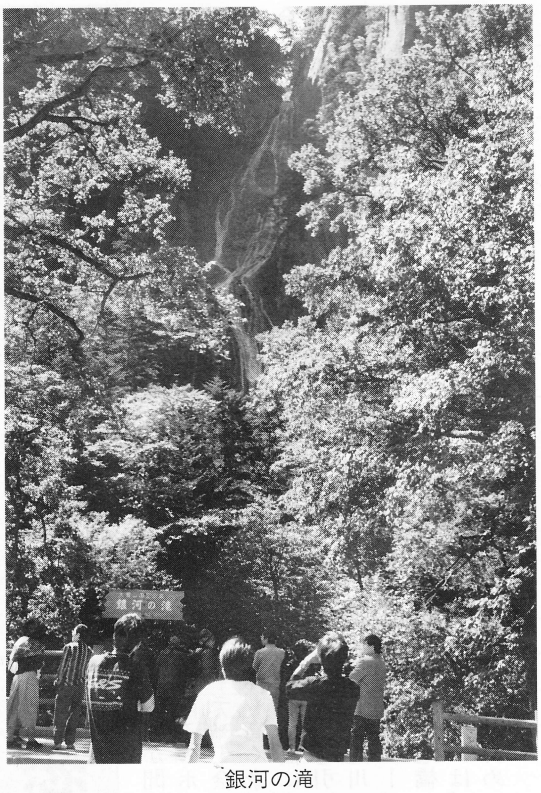
があり、久々に痛い寒さを思い出した。氷の妖精クリオネにもお目にかかれた。

再びバスで層雲峡に向かった。そびえ立つ岩の柱が見えはじめた。白蛇の滝は水量がなくて見えなかったが、雄渾な流星の滝、優雅な銀河の滝は昔と変わらない姿を見せてくれた。

大函・小函は昭和二十九年の十五号台風によって、大雪国道の開設の着工から太古からの壮大なスケールの素晴らしさが半減されそうで残念だった。

黒岳のロープウエイとリフトで頂上まで上り、大雪山登山の一端を味わった。足元にはチングルマ、綿スゲ、深山竜胆、桔梗など高山植物が咲いていた。

昼食後、バスは大雪国道を一路、然別温泉へ、途中大雪ダム、人造湖の糠平湖を車窓から眺め、然別温泉のホテルへと向かった。ホテルの真前には人の上唇にそっくりの唇山が形よく、然別湖にその全容を映していた。


銀河の滝

宿の「ホテル福原」は美術館を持っていた。神田日勝の作品が中心だが、北村西望の書、近衛文麿の昭和二十年八月十五日の「般若心経」の写経の軸、平沢貞通の絵や絵手紙など珍しいものもあった。

夕食には然別湖にしかいないという魚オショロコマ料理が珍しく、私には十勝牛のサイコロステーキが最高だった。

宴会もカラオケが次々と流れ、得意のノドを聞かせていただき、楽しい夜であった。

翌朝早く起きて森林浴コースを歩いた。そのせいか、バイキングの朝食も美味しかった。この日も天気が良い。

然別湖は大雪山国立公園の中の唯一の自然湖。周辺をエゾ松、トド松の原生林に囲まれた手つかずの雄大な自然の懐に抱かれていた。

午前九時出発。駒止湖を最後に湖とお別れして、扇ヶ原展望台へ。そして、また、十勝平野をひた走る。柏、白樺の木が美しい。また、まっすぐな道。ビート畑、黒いビニールで包まれたスノーボールなどなど。車窓から次々と見ながら、人を寄せつけないという北海道の脊骨、日高山脈を抜けた。つまり十勝の国から石狩の国へ入った。狩勝峠である。

◀層雲峡にリスがチョロチョロ、黒岳ロープウエイ駅で

扇ヶ原展望台とは反対側で眺める広大な、これこそ北海道という景観だった。天気に恵まれ好運だった。

三つ山峠を越えると水田が見られるようになった。芦別連峰も眺められ、富良野へ入った。倉本聡のTVドラマ「北の国から」で観光地になった麓郷の森は、TVのロケ地で撮影に使われ、火事で焼けた小屋が残っており、梯子段を上った二階から、純君と蛍が覗いている場面を思い出した。

ファーム富田やフラワーランド、丘の町、パッチワークの町美瑛も花の盛りの時期が過ぎていた。とくに、丘を紫に染め上げるラベンダーがないのが淋しい。それでも紫サルビア、赤いサルビア、コスモスなどの澄んだ色の配色の広がりは美しかった。この辺りは最終コースなので、お土産品の物色に忙しかったようだ。

人気の品は、富良野メロン、ラベンダー製品が多い。バスを降りるたびにラベンダーのソフトクリームやら焼きトーキビを食べる姿も見られた。この辺り、JR富良野線沿線一帯は美しくモダンに脱皮したようだ。

富良野、美瑛、東神楽町を通り、旭川空港へ着いたのは日が傾きかけた午後五時、この日は珍しく汗ばむような一日だった。

道内巡りの一行とこの日に帰る人たちと合流し、十八時の飛行機便で帰京の途についた。

東京空港は三二度とか。まだしばらく続く残暑を思った。

●●●●●●ありがたきは故郷●●●●●●

大雪山国立公園然別湖にて。
会旗を手にした本間敏弘、南栄二氏（その右4人目）ら。

第20回 東京旭川会総会・懇親会

於：東京新宿 京王プラザホテル

わたしたちの故郷、東京旭川会の総会は回を重ね、一九九六年で二十回、ようやく「成人会」を迎えました。記念すべき第二十回総会および懇親会は一九九六年（平成八年）十一月九日、東京新宿の京王プラザホテルで開催されました。ことしは二十周年という節目の年であり、新しい若手幹事を加えた企画委員会は精力的に運営に取り組み、その結果参加者は二百七十人に上り期待通りの盛会となりました。

このところ出席数が年々減少し、平成に入ってからは二百人を割っていました。今回はようやくこれを挽回し、さらに新会員を一人でも多くとの意気込みが目立ち、会場の随所にアイディアが生かされていました。今回のように昼食会の開催もことし初めてのこと、午前十時前から役員が準備にとりかかり、十一時過ぎから参加者が姿を見せはじめ、総会参加者の総数は二百五十人を突破しました。これは本会の史上四番目で、第十回総会の二百九十一人に次ぐもの。

受付で渡された総会のプログラムも内容豊富であり、会報紙上の「二十周年おめでとう」の協賛広告にも幹事の意気込みが感じられました。また、受付で渡された、二十周年の記念品「印鑑ケース」は旭川木工団地で製作されたもので、木の香りが仄かに漂い、手になじむ木のぬくもりが伝わり好評でした。

会場に入ったとき「明るい！　広い！　きれい！」などの声が聞こえてきました。ことしはこのホテルでいちばん広いパーティー会場「エミネンス」で天井も高く豪華なシャンデリアの輝きが正面に掲げられた東京旭川会の会旗を引き立たせていました。右側は旭川市やその他北海道の観光ポスター。とくに秋灯を石狩川に落とす旭橋が郷愁をそそりました。左側には、旭川ラーメンの屋台。ことし初めて設置されたものです。

正午定刻に司会の本間敏弘幹事による開会宣言。八木祐四郎会長が議長に選任され、第一号、第二号議案の平成七年度事業報告並びに決算報告と平成八年度事業計画並びに予算案が桑本平八事務局長によって報告されました。

平成七年度の決算報告に対し、植木宏昌監事から監査結果、適正に処理されている旨報告がありました。さらに平成八年度事業計画の中に、一時中止された郷土訪問旅行を会員の要望多数により復活させ、二十周年記念の郷土訪問の旅を実施する計画とのこと。議案は満場一致で可決し、十二時十分総会は終了しました。

〈第一号議案〉

東京旭川会　平成七年度事業報告

(1)　第19回総会・懇親会
　平成7年10月18日　京王プラザホテル
　出席者百三十六人　来賓・随行十四人
　合計　百五十人

(2)　ゴルフコンペ開催

(3)　会報『ななかまど』17号発行

(4)　北海道ふるさと会連合会行事参加

東京旭川会　平成七年度決算書

〈第二号議案〉

東京旭川会　平成八年事業計画（案）

(1)　第20回総会・懇親会
　平成8年11月9日㈯午後十二時
　京王プラザホテル

(2)　第11回郷土訪問の旅

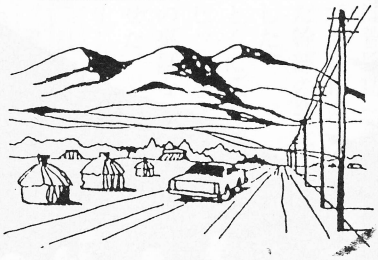
(3)　会報『ななかまど』18号発行

(4)　北海道ふるさと会連合会行事参加

東京旭川会―平成7年度決算書（平成6.9.1～平成7.8.31）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰入金	1,149,142	懇親会費	1,523,594
年会費	614,000	印刷費	860,204
懇親会参加費	1,360,000	通信費	157,540
名簿売上代金	5,200	会議費	108,855
寄付金	225,000	交際費	38,000
広告収入	0	事務費	36,093
雑収	2,221	手数料	12,662
		雑費	10,680
		支出計	2,747,628
		繰越金	607,935
合計	3,355,563	合計	3,355,563

同級生便り



歴史ははるか明治にさかのぼる。明治40年北海道庁立上川高等女学校として創立、大正4年に庁立旭川高等女学校と改称。戦後昭和23年道立旭川女子高等学校、同25年には新学区制実施により現在の道立旭川西高等学校となった。

その前年5月、校舎が火災にあい、廃校も取沙汰されたが、焼け残りの校舎で旭川西高校が発足した。平成9年には、創立90周年を迎えた。

私どもの同窓会は西高同窓会の中にあったのだが、旧庁立旭川高女の連帯感を昂めようと昭和54年に再出発。名称を「北海道庁立旭川高等女学校同窓会（桜花会）」とした。北海道旭川西高等学校のルーツとしての誇りと責任を持ち、西校の発展に協力することを目的とした。本部は西校内に置き、昭和54年9月に第一回桜花会総会が開催された。庁立旭川高女の足跡をしっかり残したいとの情熱を感じさせられた。

桜花会東京支部も年一回の支部総会を続けていたが、旭川本部と同様に「桜花会」東京支部と名称を改め、第一回支部総会が旭川から一年遅れて昭和55年11月に開かれた。桜花会東京支部を「同窓生の親睦を旨とし、本部（旭川）との開連を深める」と推進させた当時の支部長は牧田逸子さんで、支部を組織した。

母校を失ったような淋しさに沈滞気味だったのが、復活の気力溢れる総会になった。支部総会は例年秋であったが東京旭川会の総会と続くこともあり、平成元年から桜花会の名に相応しく桜花爛漫の四月に開かれるようになった。

西高東京同窓会からも会長はじめ数名の方が出席、会を盛り上げてくださる。在学当時の恩師のご出席のときは皆で先生を囲み女学生の昔に還る。支部会員は97歳の5期生を筆頭に、40期生まで、四百五十人で、総会への出席数は平成8年は百人であった。

総会では会員のメッセージを印刷して配ったり、読み上げたりして、年齢を感じさせないチャレンジ精神、生涯現役と打ち込む姿を紹介して、励まされたりする。

いずれは西校同窓会に吸収していただくことになるのだが、桜花会自身の手でできる限り、桜花会の人の絆を大切にしたいと思っている。

桜花会東京支部長須藤智恵子（昭和19年3月卒業）
▽連絡先＝中野区大和町2の37の8　須藤方▽板橋区大谷口北町51の7　西田育子

東京旭川会―平成8年度予算（案）

科目	平成7年度予算	平成7年度決算	平成8年度予算	摘要
収入の部				
繰入	1,149,142	1,149,142	607,935	
年会費	1,000,000	614,000	800,000	400名
懇親会費	2,000,000	1,360,000	2,000,000	出席200名
名簿代	0	5,200	0	
寄付金	200,000	225,000	200,000	
広告代	0	0	480,000	
雑収入	2,000	2,221	2,000	
収入計	4,351,142	3,355,563	4,089,935	
支出の部				
懇親会	2,000,000	1,523,594	2,000,000	出席200名
印刷費	400,000	860,204	500,000	会報
通信費	300,000	157,540	200,000	
会議費	100,000	108,855	100,000	
交際費	70,000	38,000	50,000	
事務費	10,000	36,093	20,000	
手数料	10,000	12,662	15,000	
雑費	5,000	10,680	10,000	
支出計	2,895,000	2,747,628	2,895,000	
繰越	1,456,142	607,935	1,194,935	
合計	4,351,142	3,355,563	4,089,935	

東京旭川会　平成八年度予算（案）

会場のテーブルは出身地域別にⒶからⓗまでの8ブロックがあり、懐かしい知人と出会いがあるように、また懐かしい方々を見つけやすいようにとの新しい企画の配慮でした。Ⓐテーブルは中央地区、旧市内のブロックで、旭中出身者が、旭中の生んだ名ピッチャー、スタルヒン選手のお嬢さんナターシャさんを囲む姿も見られました。

総会を終えて、皆さんが待つ会場に来賓入場。菅原功一旭川市長と美喜子夫人、夫人は初めての参加、前旭川市長坂東徹氏はじめ旭川市関係の方々、ついで旭川観光大使二十三氏が満場拍手の中を入場、正面の席に着かれた。懇親会は加藤桂子、伊東喜久子両幹事の司会により進められました。

まず、八木会長があらためてご挨拶。もう旭川はこの冬になって六度目の雪が降っているという故郷に遠く思いを馳せ、旭川市長はじめ来賓の方々、初めてのご出席で花を添えてくださった二十三人の旭川観光大使の方々へ歓迎のことばと東京旭川会のメンバー五百二十八人のうち二百七十人もの出席という盛会を喜び、皆様のご協力・ご支援に感謝し、御礼のことばを述べられました。

この時、旭川出身のアトランタオリンピックの女子柔道金メダリスト恵本裕子選手が柔道連盟の行事で来られないのは残念でしたが、東京オリンピックのレスリング金メダリストの吉田義勝氏が出席されており、歓声に応えておられました。ここで八木会長にミス旭川の早川理恵さんより花束が贈呈されました。次いで、菅原旭川市長のご挨拶。

「お招きいただきまして、旭川市を代表する市関係の者や坂東徹前市長、旭川観光大使の皆様との懇談会を初めてもつことができました。ありがとうございます。東京旭川会も二十年という長い歴史を刻むことができたのは、歴代の会長をはじめ役員そして会員の皆様のたゆまぬ努力の賜と思います。そして、遠い故郷旭川にご支援を賜わりますことに対し、旭川市民三十六万四千人を代表して心より御礼申し上げます。

旭川は明治二十三年旭川村が開村して百六年という若い町です。旭川市は北海道で第二の都市として堂々と隆昌の一途をたどっています。これも皆様のお蔭と思います。きょうは初代北海道庁長官岩村通俊卿のお孫さん、岩村和俊氏が見えておられますが、いろいろな方が北海道を、旭川を作ってこられたのだと思っております。

大雪山も真っ白、冬を迎えようとしています。米所旭川は大豊作です。旭川の行政を坂東前市長より引き継ぎ二年目。市立病院は新しくなり、近文の清掃工場は近代的な設備を整え、医科大学近辺に国の構想に基づくハイレベルな工業団地を作ることができました。また、旭川駅周辺の広大な土地の開発も国・道のゴーサインがでて、事業スタートを果たしました。

さらに、民間経営の動きとして、宮下通りの上川倉庫（井内謹二氏所有）を改修し、地元の経済人が集まって地ビールを作ろうと大雪地ビール館を今月オープンいたします。また、その隣に旭川の魅力を知ってもらうため、旭川の財産を展示するコレクション館のオープンも予定され、夏には永山にラーメン村が若手経済人によってオープンします。

また、飛行機が東京、名古屋、大阪、福岡に飛んでいますが、十月一日から仙台にも飛ぶようになりました。昨年の観光客は三百六十万人で一昨年の三百二十万人より大きく増えています。このことは地道に旭川のよさを多くの方に認識してもらっているからだと思います。

東京旭川会の皆様、観光大使の皆様、どうかふるさと旭川をご支援ご協力を賜わりますように――。

ついで当日のハイライト、豪華賞品のお楽しみ抽選会が武田陽子幹事の司会で進められた。次々に読み上げられる当たり番号札に落ちつかない様子。その間に歓談も続けられ、ミス旭川と握手のツーショットなど微笑ましかった。会場中央の料理台に料理の種類も多く、それぞれ好みのものを取り、屋台ラーメンに二度、三度と並ぶ人もいたようです。地元の日本酒、ワイン、ウイスキー、トマトジュースなど飲みものも豊富で、皆さんご満足のようでした。

旭川への航空券の抽選となると、皆さん真剣に自分の番号札を見つめていました。最後の一本、全日空の旭川往復無料搭乗券ペア「一一六番！」に歓声が上がりました。

高校同窓会の消息

東京の各高校同窓会の消息について、旭川市東京事務所に調べてもらったところ、合計八高校の同窓会が活動を続けていることが判った。

▽桜花会（旧庁立旭川高女の同窓会）＝支部長・須藤智恵子☎三三三七―四三四〇▽緑蔭会（旭川市立高女同窓会東京支部長・大城栄子☎三五五一―二六二六▽旭川工業高校＝事務局長・原公朗☎三五七四―六二五一▽旭川農業高校＝東京支部長・笠原貞夫☎三四二九―〇五二五▽旭川東高校＝支部長・白倉伸也☎三六一五―五四〇〇（日立機材　代☎）▽旭川西高校＝横峯昇支部長☎五五六八―〇〇五一▽旭川北高校＝支部長・福士忠幸☎三四二八―六一五五▽旭川商業高校＝支部長・本間敏弘☎〇四二三―八一―六八六三。

このほか、市立旭川高女の後身、市立北都商業高校の東京支部は活動休止中。▽旭川南高校、旭川東栄高校、旭川凌雲高校、旭川大学高校、旭川実業高校、旭川竜谷高校、旭川藤女子高校はいずれも東京に支部を置いていない。これら高校ＯＢの東京におけるグループ活動についてご存知の向きは東京旭川会事務局までお知らせを。

恵本嬢やったやったの金メダル!!

やったやった。米国アトランタで行われた一九九六年（平成8年）のオリンピックでわがふるさと旭川が送った女子柔道61キロ級の恵本裕子（えもとゆうこ）さん（24）がついに金メダルを獲得して「バンザイ」を叫んだ。

1回戦はロシアのボゴミアコクを、2回戦はフランスのフルールを、3回戦ではイスラエルのアラドを、ついで準決勝でオランダのハルをいずれも優勢勝ちで進んだ。この上もう一つ。決勝の相手はベルギーのエース、バンデカバイエ選手。起ち上がった恵本は左手で相手を力強く引きつけると三連発の体落しでおびやかし、ついに内股一発でマットに沈めた。日の丸選手団として金メダル第一号である。

日本のマスコミはわきにわいた。7月24日付の主要全国新聞は一斉にまるでほえ立てるように大きくスペースをさいてこんな大見出しで報道した。

〔東京新聞〕攻めて攻めて最高の切れ

〔毎日新聞〕強心臓歴史作った恵本、やった、やった、かった―

〔朝日新聞〕23歳、母へ最高の贈り物、柔道は私の青春

〔産経新聞〕攻めの柔道大舞台で開花

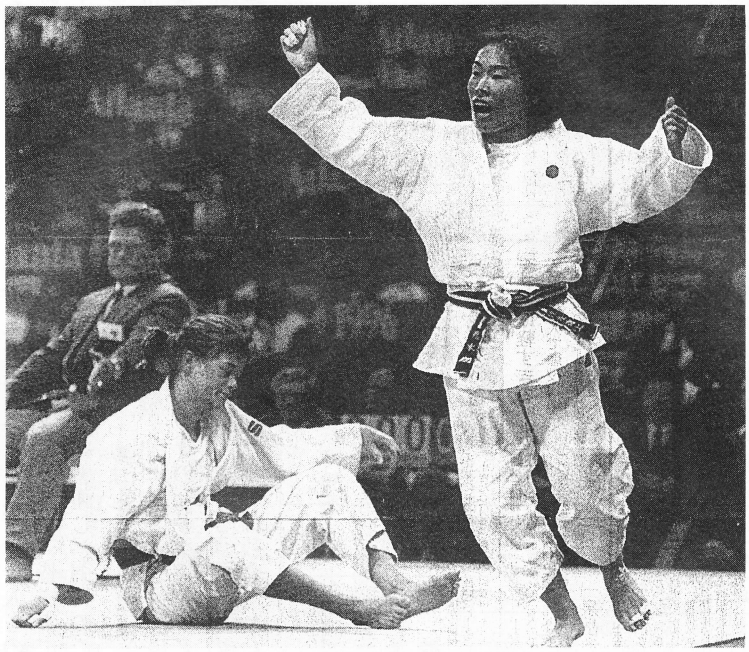
〔読売新聞〕柔道の恵本やったとくに読売新聞は一面トップと社会面トップで大きく報道、このなかで恵本を育てた旭川南高校における爆発的な喜びをこう伝えた。

「すっごーい」「信じられなーい」。榎本選手がバンデカバイエ選手を下した瞬間、母校の北海道・旭川南高ではテレビ観戦していた柔道部員らが一斉に歓声を上げた。

校長室には柔道部員や新井之明校長（58）ら約三十人が集まり、テレビの前で徹夜観戦した。「このクラスは世界の層が厚くて、難しい戦いになるだろう」柔道部の中野政美監督（51）は厳しい表情をくずさなかったが、勝ち進むにつれ、「絶対メダル」決勝で一本勝ちをすると、生徒たちは「金だーっ！」と、総立ちになり、先輩の健闘をたたえた。

アトランタでは恵本選手がうれしさに泣きじゃくった。勤め先の東京・住友海上火災本店でも拍手、また拍手の渦。オリンピックから帰国した恵本選手にインタビュー

●●●●全国新聞が大きく報道●●●●



▶産経新聞

決勝戦でベルギーのバンデカバイエに勝ちガッツポーズの恵本選手

外れた人たちは残念。「また来年を楽しみにいらしてください」と抽選会が終了した。

フィナレーの万歳三唱は懐かしい坂東徹前旭川市長。「久し振りにたくさんの人にお会いできて、出て来て本当に良かった。東京旭川会の益々の発展を祈って万歳」と午後二時十分総会・懇親会は終了した。帰りに旭川市からのお土産のお米（旭川産きらら三九七）や旭川ラーメン、旭川のパンフレットの袋が配られました。

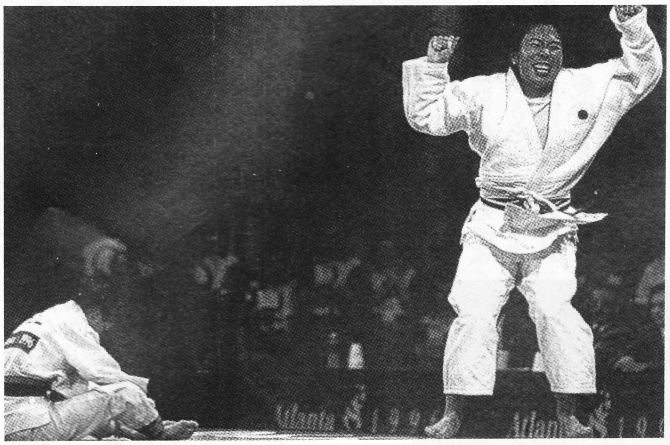
東京旭川会―平成8年度決算（平成8.9.1～9.8.31）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰入金	607,935	懇親会費	3,079,987
年会費	638,000	印刷費	33,037
懇親会費	1,990,000	通信費	149,815
名簿売上代	1,000	会議費	48,674
寄付金	315,000	交際費	41,750
広告収入	459,073	事務費	45,880
雑	521	手数料	11,700
		雑費	0
		支出計	3,410,843
		繰越金	600,686
合計	4,011,529	合計	4,011,529

第20回総会参加者（敬称略）

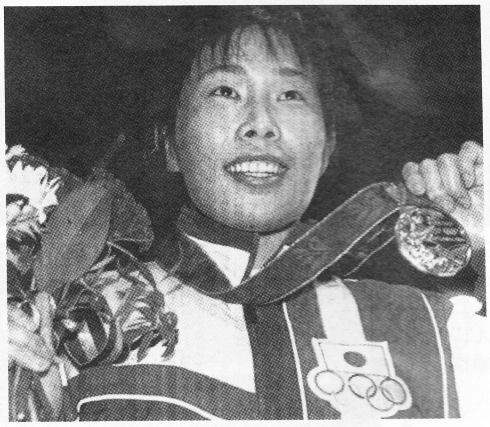
伊藤一男、岩村久子、伊塚清、石川勝邦、伊東喜久子、植木宏昌、梅原音二、海老澤美智子、大野武夫、大城栄子、尾崎靖亮、加藤桂子、河西春美、桑本平八、小柳武二、佐坂邦子、佐々木剛男、佐々木雄一、佐々木憲一、佐野雄二、笹谷享市、佐藤征司、斉藤弘明、斉藤永子、坂井弘子、佐藤貢、島田実、島田瑞子、東海林基文、島田嘉明、島田ミエ子、志倉美子、白倉伸也、鈴木吉之、須藤智恵子、鈴木三智子、杉山恵子、関晃、清水照夫、宗方裕、宗方由美子、桜岡勝征、柴崎淑子、田中国夫、田中幹夫、高氏一也、高橋正夫、竹田薫、高野哲男、高橋芳子、武田陽子、高橋英治、高橋文子、武田哲夫、田中俊明、田高良茂、寺田克彦、寺田英子、出嶋慶司、鳥居直隆、土井磨智子、土橋明次、十河勤、徳田光雄、豊田和郎、塚田かなゑ、中塚晃介、中村泰敏、中村美恵子、中村忠雄、永山義久、内藤裕子、ナターシャ・スタルヒン、西田育子、西木戸孝夫、丹羽弘明、野作雅章、名和公士、花輪音三、花輪元治、原公朗、橋本裕子、浜本道子、坂東勝利、坂東幸子、坂東宗光、原田寛、原川智子、廣瀬兵一、広野貴之、引地康博、廣田治道、福原博子、藤原浩司、福居浩一、堀川和延、本間敏弘、本間真智子、細岡信重、細貝威、堀江秀明、林秀一、萩中法子、福田淳一、松原利治、松原益子、松永茂、牧野哲雄、牧野百合子、松島蔦、前木誠、松田勇三、枡澤滋、南むつ子、南礼子、南栄二、三浦碧子、御手洗正夫、水野保、三浦規、南静児、三浦白琇、三宅一郎、林菊男、森夕寿子、森真弓、森畑諭布子、茂木信昭、八木祐四郎、矢野正康、安井規雄、山崎英樹、山崎建夫、山口道弘、山本正純、吉崎与一、吉住美光、横川正市、米陀徳光、吉田清、吉田雅俊、横幕義信、横山秀夫、吉田孝、吉井啓蔵、渡辺次郎。

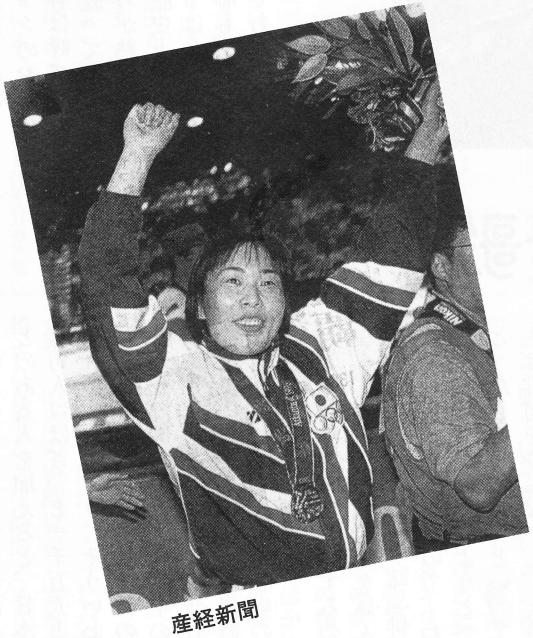
しようと二度にわたり打診したが、ダコで、あきらめざるをえなかった。＝写真カットは恵本選手の金メダルを伝える96年7月24日付夕刊各紙。（I記者）



朝日新聞

読売新聞





産経新聞

東京新聞

旭川八景 ご・存・知？

〝旭川八景〟というのをご存知ですか。旭川市では平成9年6月から7月にかけて旭川八景市民投票を行った。市の月間広報誌『旭川市民』に折り込んだ投票用紙で候補二十景からそれぞれ八景を投票した。

候補とは――。

①旭川国際パーサースキー大会
②旭川市彫刻美術館（旧旭川偕行社）
③旭橋
④嵐山と嵐山からの眺望
⑤江舟別のそば畑・市営牧場
⑥男山自然公園周辺のカタクリ群落と雑木林
⑦買物公園
⑧神楽岡公園
⑨神楽岡通線プラタナス並木
⑩神居古譚
⑪外国樹種見本林
⑫台場地区からの眺望
⑬ダイヤモンドダスト
⑭常磐公園
⑮七條緑道
⑯西神楽の田園風景
⑰飛行機から見た旭川
⑱ロータリー
・……
・……

市民投票では総数三千八百二十票で八景が決定したという。『旭

戦前は陸軍の将校クラブだった。

◀旭川彫刻美術館（旧旭川偕行社）

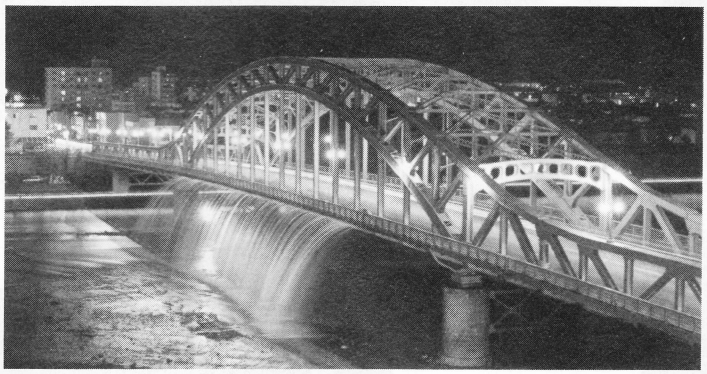
川市民』10月号によると、当選したのは②③④⑦⑩⑪⑬⑭の八景であった。それはそれでわかるのだが、三千八百二十票はどこが1位なのか、得票数は発表されなかった。

どういう配慮から得票数は公開されなかったのか。これでは「闇の八景」などという陰口を叩かれるのでは……。

こうしてみてくると人工的なものにしろ、自然美にしろ、郷土旭川を代表する景観が意外に乏しいことがお分かりになるだろう。考えてみるがいい。千年の古都京都が観光地として見物客を招くのは、金閣寺、銀閣寺など社寺仏閣や二条城などの歴史的建造物が呼びもの見物となったからだ。

静岡県熱海温泉の場合、フィクションのお宮の松だけでは客は呼べないと、戦後暫く経ってからひねり出したのが熱海城である。だが歴史上そんな城はない。やはりローマも京都も熱海も一日にして成らず、である。（I）

石狩川に架かる旭橋は、1992年に60周年を迎えた。写真は夕映えに浮かび上がる旭橋の勇姿



60周年を記念して行われたリベラインフェスティバル

大雪山讃歌

ほんの少しでも俳句を詠んだことのある人を加えると、日本中の俳句人口はざっと一千万人と推定されているという。そういわれると、学校教育の課程で教科の中に五七五の俳句や三十一文字の短歌が入ってくる。といって今日のような姿になったのは、江戸時代以後のことなので、そう歴史のある短編詩とはいえない。

ここでは俳句を批評するのではなく、大雪連峰の旭岳を詠んだ俳句を特集した日刊俳誌『俳句研究』が目に止まったので、わがともどちにもお伝えしようとペンをとったものである。といっても老生は俳句をやらないし、とりたてやる意思もない。

ただ、俳句の本流の一つ、「ホトトギス」の一族の星野椿、星野高士さんはじめホトトギス同人の盛り立てる俳誌「玉藻」で三年前から文章講座の選者（講師）を勤めているので俳誌にも視線を走らせることがしばしばである。「玉藻」では駆け出しの俳人から同人級の方々まで約二十人が月一回参会して私を師の座に据え文章の勉強会を開いている。

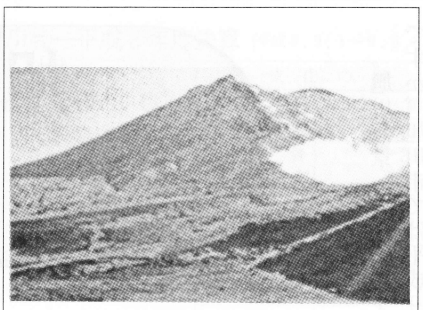
「玉藻」誌の読者の中には旭川の続木元房、坂田雨集氏らホトトギス系の著名俳人の名も見えるので書きそえておいた。また「ホトトギス」に旭川の弁護士、大塚重親先生が同人として千々二の俳号で戦前から詠まれている。

旭川地方にもいくつかの結社があるようで、この道はかなり盛んらしい。さて、「玉藻」誌八百号ではこんな山の句が目立った。

富士山のここ八合目天高し　元房

大いなる山に懸りし虹二つ　雨集

元房、雨集氏はどういう方なのか、ちと知りたいと思った。一方、「俳句研究」97年11月号で松倉ゆずる氏ら一流の俳人九氏が一人八句あて旭岳吟行を詠んでいる。



伊藤一男

松倉氏は同誌に「北海道の内陸はやっと入植百年を越えたところ。百年などそんなに昔ではなく、六十年前の山河はありありと思い浮かぶ」としたためていた。旭川と上川盆地の歴史はまだ若々しいのだ。

さらに俳人、金箱戈夫氏は、かつて旭川市で生活した時代を回想しながら、こう綴る。

「〈四十年儚儚秋雨しぶく街〉旭川は私の若き日の任地であった。反骨抱いて東京から渡道した。山を見て暮らした。四十年昔である。石狩川は今も激流をなしていた。〈秋大河われは反骨すでに老ゆ〉」

文中は自作の五七五ならん。他の八句のうち「虹鱒は淑女のごとし露山河　戈止夫」が目に止まった。

さらに花見弟花氏は「いつも仰ぐ大雪山連峰を背景に石狩川を配す上川盆地を盆景のように思う。自作に〈大雪山緑蔭のごと動かざり〉とある。山を仰ぎ川を聴くと心が洗われる。真に神々の遊ぶ庭、俳句の庭でもある」とみのり豊かな上川盆地を讃えてやまない。自作の句は――。

蝦夷松の已れ失う霧湧かす　弟花

来世より霧へ噴くごと岳樺　同

河村まさあき氏は「吟行は、その地への挨拶、それは、地名や名品等を織り込めば足る、といった単純なものでないはず。その風土と、アイデンティティーの触れあい、あるいは闘争であろう。吟行の名士は羨ましい」といっている。

地名や香水の名を入れた演歌くらいでは土地の心は伝わらないという次第。

旭川を日本の皆さんに広く伝えるには、高度の言葉文化から、というのだろう。

（筆者は本会会員で元読売新聞社会部記者、菊池寛賞グループ受賞、ノンフィクション作家）

ワラビ団子で耐えた 旭川開拓スピリット 〈前編〉

エッセイスト　北の散人

もの書きをなりわいとする私の手もとに、ふるさと旭川関係の文献がいくつかある。この中でとくに重視するのは▽『前野与三吉わが回顧の記』▽『旭川市功労者伝』▽『旭川第七師団』の計三点である。

今回は前野与三吉元旭川市長の回顧録を軸にとりあげてみたい。この本はどうやら元旭川市役所で教委主幹をしていた示村貞夫さんがとりまとめた郷土史の一つらしい。明治二十二年（一八八九年）石川県松任町に生まれた前野さんは四歳の時、七十四歳の祖母ヒワさんはじめ父小三郎、母スギさんらに伴われ、遙かなる北海道へやってきた。同書にこうある。

「明治二十六年春、前野一家は家をたたみ、土地・家屋も総て売り払って旅にでる。ヒワばあさん、両親、それに七歳の長男吉太郎、四歳の私、生まれたばかりの妹ソト。ヒワばあさんは車にのせ、妹のソトは母に背負われ一家は徒歩で港に向かう。今の北陸本線を東へ進み、金沢、森本、石動、高岡、能町と泊りを重ねて伏木港につく。ここから小さな貨物船に便乗し、途中、新潟、佐渡ヶ島、さらに江差などに寄港しつつ、寿都の名ばかりの港につく。時に明治二十六年初夏の候であり、遅い北海道の春もすんで、青葉若葉の照り返しもまぶしいころであった。」

パイオニア前野さん一家は寿都港から徒歩で歌島へ向かう。ここで二年間ニシン漁場などで過ごした一家は、新天地を求め小樽から汽車で滝川に出る。岡蒸気といわれた汽車はここまで。あとは馬の背か徒歩で上川へ向かうしかない。開墾の暁には農地一万五千坪を与えるという話である。北上して東神楽の開拓地に入ったのが明治二十九年七月、待ち受けていたのは気候のきびしさと赤貧洗うがごとき生活だった。

前野さんは「私の家は食糧をもっていたので近所から羨ましがられた。たいていの家では神楽岡からとってきたワラビの根で作ったデンプン団子で昼をすましてきた」と述べている。かくいう北の散人も驚いてしまった。ワラビの根は飢餓食である。当方は飢餓の研究者ではないが、評論月刊誌『公評』（97年4月号）に詩人・大沢栄は論文「新たなる戦後五十年の布石　7」の中で旭川周辺で生きた乞食のようなボロ農民の事例を描いている。ちょっと紹介させていただこう。

登場するのは今野大力というボルシェビキー。思想的なことはともかくとして、今野一家は明治三十七年（一九〇四年）に宮城県金山町で大凶作にあい、名寄に移住して再起を図った。裸同然の一家は暮らし易いといわれた旭川市の近郊に再移住するが、赤貧そのもの。ローソクもランプもないので夜は真っ暗。それでは生活もままならないので白樺の皮である雁皮（がんぴ）を燃やして間に合わせた。

戦時中ばかりでない。凶作に見舞われると人がばたばたと死んだ。その頃の飢餓食は「唐きびと麦と小豆を煮たもの」である。また飢餓食に「かてめし」というのもあった。米のめしと海草、雑穀、大根などと炊いた増量食である。こうした一種の雑食ないし混合食はいまも私たちの周辺に残っている。

岩手県では東京でいうスイトンであるヒッツミを食す。熊本のダゴ汁ももとは飢餓食といえた。甲州のホウトウ、上州のおキリコミも同じカテゴリーの食べ物である。

ホウトウとおキリコミの共通点は鍋の中に入れるウドンの類は一度うでてあげるなどの手数はかけない。粉をねりあげたら、そのまま切って汁の中に入れる。ウドンのうで汁を利用したゴッタ汁といっていいだろう。どんぶり一つですませる簡便食なのだ。

面白いことには、こうした飢餓食が、明治の中期以後、太平洋を越えた日本人と一緒にアメリカ、カナダへ渡った。その一つはダンゴ汁である。

メリケン粉をこねた味のスイトンである。スイトンは戦事中私たちがお世話になった常食だが、旭川でも明治の開拓時代には粗食の団子を食べて耐えぬいたとある。わが故郷のワラビ団子はやはり汁ものにして食べたと思われるが、貧しい開拓民には調味料に味噌、醤油は貴重だったろうから、あるいはアメリカの日本人移民なみに塩味のダンゴ汁であったのであるまいか。

日本人移民が鳥目にかかりながらも〝風土食〟といえるダンゴ汁をすすって生きた。同じ生棲条件にあった東洋からのチャイニーズはどうやって生きてきたのだろう。

中国料理のチャプスイ屋というのがアメリカにある。民衆レベルでは中華料理店をチャイニーズ・レストランなどといわない。もっぱらチャプスイだ。何故そういうのか、たしかな語源は判らないものの、戦前サンフランシスコの日刊邦字紙『日米』新聞で編集長を勤めた四至本八郎さんの著書『支那人街』（太陽閣）によると、一八九六年（明治二十九年）に中国の宰相、李鴻章が欧米視察の途次、シカゴに立ち寄った。

接待に出た在米中国人は「おいしい特別料理を」という要請にキッチンにあったブタ肉、モヤシ、クワイ、セロリ、タケノコ、中国の菜っ葉類を炒めて差し出した。これは濃い目のチャイナ醤油で召し上がっていただいたのである。よほどお口に合ったのだろう、李鴻章は「うまい」と絶賛してこの料理の名を尋ねると「チャプスイでございます」と答えた。もともと中華料理のメニューにチャプスイ（CHIPSUYないしCHAPSUY）などという料理はない。

しかし、李先生がアメリカ各地で「チャプスイ、チャプスイ」と知ったかぶりで口にするので全米的にチャプスイなる献立が広まり定着したとある。新語をつけるのがうまい中国人はすぐにチャプスイに「雑砕」の二文字をあてはめた。

これが拡大して中華料理店そのものをチャプスイともいうようになった。四至本説では偶然に生まれたメニューとある。そういえば先日、香港の超一流料理店で食べてみたが、チャプスイなどという料理はなかったし、北京を公式訪問する日本代表のおもてなし料理の中にもチャプスイなどというけったいなメニューはなかった。

しかも、安くてうまいのは結構。事実このチャプスイという言葉は安っぽい、安直なという意味にも用いられることもあるようだ。たしかに明治の日本人移民にうかがうと、値段も安い。

サンフランシスコやシアトルのチャプスイ屋でチャプスイ料理一品と塩汁のスープ一椀と飯（スチーム・ライス）がついて明治時代は一食なんと十セントでしかなかった。今日の感覚ではせいぜい日本の百円である。

〈つづく〉

会員に聞いたアンケート

東京旭川会をどうするか

▼もっと会の活性化を

郷里の会にして何かが足りない。有名になった方々を寄せつけないのか、それとも寄りつかないのか、なんとも淋しい限りである。

できれば出席者の中から有名人になられた方々をご紹介し、出席者でその労をねぎらい挨拶でもさせる方法が良策と思う。そして会に対する理解力と郷土愛を持ってもらうのが望ましい。このために旭川東京事務所にも大いに口火を切って活動していただきたいものである。

（本間敏弘）

▼皆さんの知恵を

旭川出身の首都圏在住者は、どのくらいいるのであろうか。おそらく一万人を大きく上回わるであろう。しかるに総会出席者は百五十人前後という事実がある。

その原因の分析と対策を真剣に考える必要がある。具体的には東京旭川会の中にそのためのプロジェクトチームを作り、旭川市東京事務所をまじえて、じっくり検討したらどうであろうか。

（高野哲男）

▼まず役員の若返り

会員の若返りもさることながら第一に役員の若返り。せいぜい三期（六年）ぐらいで交替する。ただし退任の役員が交替要因を推薦しない場合は不可。新企画を行う場合、担当（責任者）を明確にしてはどうか。会報の企画「人」は会員から逐次ピックアップして紹介する。

（桑本平八）

▼傘寿の会員が提唱

私は傘寿を迎えた。六十年間一日も休むことなく勤務した会社を五月で退職した。今まで仕事以外の事にはあまり尽くせなかったが、これからは東京旭川会の役員としてできる限りお役に立ちたい。現在のやり方で申し分ないと思うが、郷土訪問の旅は続けること。役員に新人を増員して育成に全力をあげること。役員会の回数を増やして、意見を直接聞き、会の運営に反映させたいと思う。

（松原利治）

▼私も幹事役交替を

会のお世話役の方々は二十年も続けてまいりました。お互いに大変ご苦労さまと申し上げたいと思います。

創立いらいもう二十年たちますので、新旧交替をしていただきたいと考えます。私自身、トシをとってきましたので——。

（武田陽子）

▼若い人の参加を

私を含め年々会員の方々が高齢化しているので、若手の旭川人が積極的に参加するよう『ななかまど』を通じて広く呼びかけていただきたいと考えます。

（大城栄子）

▼故郷旅行は続けて

去る三月十九日のこと、故郷に久々に帰ったおり、母校の朝日小学校から卒業式に呼ばれました。昭和二十年の卒業時は約二百人いましたが、当日の参加者は二十七人、幼い頃に帰って感無量でした。

（橋本裕子）

▼〝大使〟活用に予算を

三十何万人に人口がふくらんだ旭川。どこの地方都市でも京浜や京阪神へPRをしていますが、せっかくわが旭川は「観光大使」をつくったのですから、この制度をどう活用していくか具体的に考えてほしい。形式的なものでは意味がありません。

歌手の伊東ゆかりさんはじめ各地にかくれた〝旭川ファン〟がいるのですから、これらの方々をバネにして市当局は考えてほしい。ある程度、広報活動費をかけてもいい。

東京から見て旭川はいつも春霞の中で眠っているみたいですが、どうでしょうか。

（高橋文子）

賀正　東京旭川会　あけましておめでとうございます。

有限会社 法文堂
代表取締役 伊藤法夫
〒105 東京都港区新橋 5－7－14 三喜ビル
TEL. 03－3434－1731
FAX. 03－3434－1269

ちゃんこ料理
ちゃんこ道場
本　　店 東京都墨田区 緑 1-28-4 TEL.(3635)-5347
両国駅前店 東京都墨田区横綱 1-3-12 TEL.(5624)-3655
鶴糸町店 東京都墨田区江東橋 2-6-2 TEL.(3631)-6755
店主 伊藤尚子
大宝商事有限会社
〒130 東京都墨田区千歳 3-17-22 TEL.(3635)-3231

株式会社 横峯設計
代表取締役 横峯昇
〒105 東京都港区新橋 2－19－6
TEL. 03－5568－0051
FAX. 03－5568－0058

株式会社 ジック
交通事故損害調査業務・保険代理店業務
代表取締役社長 尾崎靖亮
〒240 横浜市港北区新横浜 2－7－3 フジビル9F
TEL. 045－473－4851
FAX. 045－473－4191

東日本自動車損害調査株式会社
代表取締役 木綿秀幸
〒222 横浜市港北区新横浜 2－7－3 フジビル8F
TEL. 045－473－4859
FAX. 045－473－2699

株式会社 田中組 東京支店
支店長 廣野貴之
〒101 東京都千代田区神田神保町 1－34 三村ビル4F
TEL. 03－3293－9181
FAX. 03－3293－9186

▼PRの妙案を

ふるさと旭川を売り込むには目玉が必要なのに、その目玉がない。道産ん子歌手の北島三郎が「アイヤー、アイヤー」と唄った「風雪ながれ旅」の歌の文句も「小樽、滝川、稚内」とわが旭川は素通り。演歌で売るか、スポーツで引きつけるか、珍しい食べ物で招くか——。

民間主導の形でフォーラムかシンポジウムを開いてみては。それこそ旭川観光大使の皆さんを招いていいアイディアを拝聴しては。アイヤー。

（伊藤一男）

▼会報に積極協力を

会のすそ野を広げること。旭川の各高校の同窓会のようなネットワークをつくっては。会の構成を先輩・中堅・若手の三層構成はどうでしょうか。会報と旭川会とのつながりをもっとアッピールしては。会報編集に積極的に協力します。

（安井規雄）

▼野球も学業も強く

すかーっとした故郷関係のニュースを聞くと愉快である。忘れられないのは平成七年夏の甲子園でわが旭川実業高校が第1戦で四国の雄、松山高を5対4で破りバンザイ。ついで第2戦は鹿児島商を15対13で大逆転で破りバンザイ。続く第3戦は名門銚子商を4対2で破って大バンザイ。

地元大阪の関西旭川会でも応援にくり出しバンザーイ。第4戦の準決勝で敦賀気比に3対2で惜敗したものの一時は大さわぎであった。

戦前、旭川中学（現、東高）にいたビクトル・スタルヒン投手の活躍が、あれから六十年もなお消えない。何がPRなのか、考えさせられました。野球も学業も強くなれ。

（関　晃）

▼旅行を企画して

生まれ育った土地はいくつになっても忘れられないもの。年一回の総会で同郷の方々と歓談して旭川を身近に感じてきました。とくに郷土訪問の旅は有意義な企画でしたので、せめて皆さんと一泊旅行を考えてほしい。

また「人」に歌手の玉置浩二さんを登場させてください。第17号の「啄木と旭川」は大変興味深く、久々に啄木歌集を手にしました。

（向井地和子）

▼入会して良かった

東京旭川会に入って良かったと思えることをやってほしい。親睦を深める努力は勿論、何か恩恵を蒙るようなことを。

郷土訪問旅行もその一つですが、夢のような大きなことを望めば、東京に旭川会館ないし旭川クラブのような施設が生まれれば素晴らしい。

旭川市の人の宿泊所や学生寮など、企業や地方自治体では置いているところもあるようです。相当な資金が必要ですが、旭川でも前向きに考えてみてはいかがでしょうか。

次に東京の旭川会館ないし旭川クラブですが、気のきいた地方では、首都圏に学生寮など置いています。

それに旭川市が東京の私たちに何を望むのか、いつも総会に旭川市長らが参列していただいていますが、もし要望事項があったら具体的におっしゃってはいかがでしょう。

（須藤智恵子）

▼「ななかまど」手本に

関西旭川会は会報を二度発行しましたが、東京旭川会の会報『ななかまど』には及びもつきません。これからは貴紙をお手本にして充実を図りたいと考えるとともに、一人でも多くの会員を勧誘して充実させたいと念じております。

（関西旭川会会長代行・島影恒治、☎〇七二七—五九—三一九七）

▼もっと魅力ある総会を

やはり気になるのは東京旭川会の総会参加者が年々減少ないし横バイであること。責任者の一人として、何か魅力に欠けるものがあるのか、もともとこんなものなのか。創立二十年を過ぎてもう一度考えてみたいと思う。

それにもう一つ。会報『ななかまど』について、どう踏んでもこれ以上のものはできないのであるまいか。広報委員会一同の努力によるものと敬意を表したい。

（矢野正康）

賀正　東京旭川会　あけましておめでとうございます。

桜花会（庁立旭川高女）
34期　須藤智恵子
37期　西田育子
40期　橋本裕子

株式会社 サツキ工芸
代表取締役　佐々木邦雄
〒079　北海道旭川市永山11条2丁目1-25
TEL. 0166-25-2288
FAX. 0166-22-2101

（株）日税ビジネスサービス
（株）日税不動産情報センター
（株）共栄会保険代行
代表取締役　吉田雅俊
東京本社
〒160 東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー29階
TEL. 03-3340-6491
大阪支店・名古屋支店・九州支店・横浜支店

有限会社 本間不動産
有限会社 小金井美装
代表取締役　本間敏弘
〒184　東京都小金井市本町 5-19-1
TEL. 0423-81-6863
FAX. 0423-83-7070

岩村会計事務所
税理士　岩村久子
〒111　東京都台東区松が谷 1-2-3
TEL. 03-3843-9981
FAX. 03-3842-6598

薬日本堂 株式会社
代表取締役　河端敏博
〒140　東京都港区高輪 3-25-29 前川ビル1階
TEL. 03-3280-2001
FAX. 03-3280-2002

旭川市文化賞など決まる

学術、芸術、教育の分野で旭川市の発展に協力した個人、団体に贈る平成9年度「旭川市文化賞」と「旭川市文化奨励賞」は次の三氏へ贈られた。

旭川市文化賞　日本舞踊・阿部冨美さん。大正10年旭川市生まれ。昭和14年、花柳徳文に師事。同18年、冨久舞踊研究所を創設。泉流を通して日舞の普及に尽力。同54年に「旭川ななかまど文化賞」同59年「旭川市文化奨励賞」を贈られた。

旭川市文化奨励賞　◎**氷彫刻・押切清さん**。昭和9年旭川市生まれ。約40年間、氷彫刻に打ち込み、旭川に本部を置く日本氷彫刻会の副事務局長を勤めた。昭和63年同会中心の世界大会開催に尽力した。◎**絵画・氏本利光さん**。昭和5年、秋田県男鹿市生まれ。中学校の美術教師。旭川市では昭和49年から個展を23回開催。その間、一線美術協会展で東京都知事賞、パリ平和芸術祭で大賞を受けた。一線美術協会北海道支部長、旭川の百寿大学などの講師を勤める。

旭川景観賞に2ホテルなど

第3回旭川市都市景観賞は市内の五地区施設が決まり、次のとおり決定、11月6日、表彰式が行われた。

▽旭川グランド・ホテル＝8條9丁目▽タカノ社屋と花絵＝神居3條18丁目▽ナナカマド・イルミネーション＝緑橋通宮下8條通▽春光台フラワー・ロード＝春光台2・3條4～8丁目▽ホテル・クレッセント旭川＝5條通8丁目

「旭川観光大使」第1回連絡懇親会開かれる

かねてお伝えしてあった郷里旭川の強力な推進役「旭川観光大使」は旭川市と東京旭川会の共催で第一回の連絡懇談会を平成8年11月9日、東京新宿の京王プラザホテルのサロン「おおぞら」で開催しました。主催者側から菅原功一旭川市長、大西正剛市議会長らが参加、同市長の挨拶をかわきりに、二十二人の各観光大使がそれぞれ自己紹介。東京旭川会からは、八木祐四郎会長、矢野正康副会長、私、中村泰敏幹事の三人が出ましたが、東京旭川会総会・懇談会の時間もおしせまり、自己紹介をすませたところで途中退席させていただきました。

観光大使の自己紹介を要約致しますと、それぞれの方々が旭川市を自然の広がる美しい街として、心から愛しているとの感想でした。旭川出身の方々は、それぞれに郷土を懐かしみ、ゆかりのある方は一様に美しい街と評価するとのコメントが多かったように思います。旭川市は初めての試みとして、観光大使の制定および懇談会を開催したわけですが、冒頭の菅原市長の挨拶により、旭川市が発展してゆくための努力、また旭川市に対する情熱や愛情が、強く伝わってくるのを感じとった次第です。参加者次のとおり。

旭川観光大使

▽**石塚征雄**＝NHK編成局チーフディレクター▽**伊藤建介**＝実業之日本社ブルーガイド出版部編集長▽**猪瀬英雄**＝エーエヌエーケータリング取締役▽**岩村和俊**＝白石監査役（注＝岩村通俊初代道庁長官のお孫さん）▽**岡井元**＝放送大学学園理事▽**海原卓**＝作家TVドラマ脚本家▽**金平茂紀**＝TBS報道局・ニュー23、担当デスク▽**川窪正昭**＝NHK審議委員▽**川島雅昭**＝NHKチーフアナウンサー▽**五郎部俊朗**＝声楽家、オペラ歌手▽**佐原美子**＝日本エアーシステム南関東支店長▽**瀬田龍彦**＝元サッカー選手▽**千田利史**＝電通総研チーフプロデューサー▽**高宮行男**＝代々木ゼミナール理事長▽**中村泰敏**＝CMディレクター、中村企画▽**難波田龍起**＝画家▽**八木祐四郎**＝東京美装興業会長、JOC専務理事▽**柳沢紀夫**＝文化放送、放送事業本部・報道部▽**矢野正康**＝セーキ取締役社長▽**横島憲夫**＝トモス代表取締役▽**吉田義勝**＝明治乳業取締役、乳品医薬品本部長▽**渡部せつ**＝デザイナー。

これについて、本会の中村幹事に次のようなレポートを寄せていただきました。

「観光大使各位の自己紹介の内容を要約しますと、それぞれの方々が旭川市を自然が広がる美しい街として、愛しているとの感想

賀正　東京旭川会　あけましておめでとうございます。

東京美装興業株式会社
代表取締役会長　八木祐四郎
代表取締役社長　田中幹夫
〒163-13 東京都新宿区西新宿 6－5－1
新宿アイランドタワー10階 私書箱1510号
TEL. 03－5322－2725
FAX. 03－5322－2710

株式会社セーキ
代表取締役社長　矢野正康
〒102 東京都千代田区九段北 1－3－6
TEL. 03－3470－4461
FAX. 03－3264－4054

針木事務所
主幹　針木康雄
〒100 東京都千代田区永田町2－14－2 山王グランドビル9階
TEL. 03－3591－6521
FAX. 03－3591－6547

大城印刷株式会社
代表取締役　大城千鶴子
〒104 東京都中央区新川 1－20－6
TEL. 03－3551－2626
FAX. 03－3555－2925

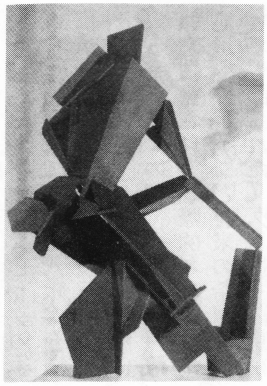
伊集院實法律事務所
弁護士　伊集院實
〒104 東京都中央区銀座 2－5－5
TEL. 03－3567－3721
FAX. 03－3567－3083

日立機材株式会社
取締役社長　白倉伸也
〒135 東京都江東区東陽 2－4－2 新宮ビル2階
TEL. 03－3615－5400
FAX. 03－3615－5403

を持ちました。旭川出身の方々は、それぞれに郷土を懐かしみ、縁のある方は一様に美しい街と評価するとともに人間味にふれたコメントが多かったように思います。

旭川市としても初めての試みとして、観光大使の制定および懇談会を開催したわけですが、冒頭の菅原功一市長の挨拶により、旭川市が発展してゆくための努力、また旭川市に対する情熱や愛情が、強く伝わってくるのを感じとった次第です。今後、旭川市はもとより観光大使の方々の全国への地道なPRが少しでも、郷土「旭川」の発展に役に立つこと、おおいに期待したいと思います。」

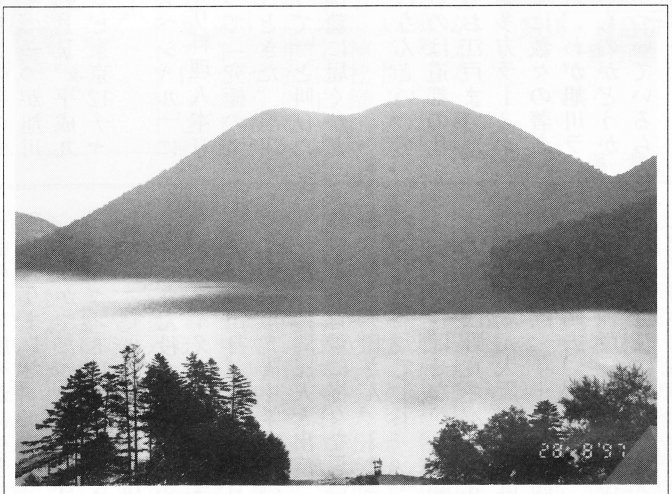
第28回中原悌二郎賞決まる



第28回中原悌二郎賞は、平成9年8月30日東京で選考会が開かれ、中原氏の誕生日の10月4日大雪クリスタルホールで下田治さんに贈られた。下田さんは大正13年満州生まれ。昭和30年代からニューヨークで活動。ニューヨーク、ロスアンゼルスなどで個展を開催。受賞作品は「かみつくめす犬」（写真）と題した抽象作品である。なお、中原悌二郎賞優秀賞は神戸市生まれの植松奎二さんの「三つのかたち―垂・傾」が受賞した。

北海道も変わった

南　栄二



然別湖の「くちびる山」（筆者撮影）

東京旭川会の旅行は楽しい行事である。前回は平成七年七月の利尻、礼文島巡りは好評を博した。ところが昨年は行われず、今回の計画となった。参加人数を確保するため、自から経営する企業の社員まで動員したとか、ご苦労さまでした。関係者各位とりまとめに大変苦労したと聞くが、参加者は五十八人に達した。今後、旅行をどうするか、総会の参加者数の維持とともに会全体の発展のため大いに問題だろうと思った。さらに歓迎準備の労をとってくださる旭川市側のこともあるのだから会の皆さんの積極的な参加をと思った。

最初の地ビール館など明治三十年代にできた穀物倉庫で開拓後の安定時代を伝える歴史的な建物といっていい。かつてはこの地ビール館を含めた倉庫群は、上川倉庫といわれていた。旭川駅や買物公園にも近い土地に明治の俤を残すこれらの建物はよくも生き残ったものと思う。地ビール館のほか蔵囲夢（くらいむ）と称するコレクション館、リハーサルホール、デザインギャラリーとして利用されている。地ビールも大雪山の伏流水というすばらしい水に恵まれ、木とレンガに囲まれ真夏でもヒンヤリと心地良い空間で、おいしいビールを飲むことができた。

この夜六時からは旭川グランドホテル錦糸の間において東京旭川会主催の旭川市長他来賓及び旭川市東京事務所の歴代のOBの方々と、東京旭川会役員との懇親夕食会が開催され三十八人が出席した。出張中であった菅原市長も出席さ

賀正　東京旭川会　あけましておめでとうございます。

有限会社 アレグロ　立体造形物企画製作
人形作家
代表　中村園子
〒171　東京都豊島区西池袋 1－5－1
TEL. 03－3590－6868
FAX. 03－3986－8864

旭川東高15期東京同期会一同
代表幹事　引地康博
（勤務先）
株式会社 講談社
広告局広告第三部部長
〒112-01
東京都文京区音羽 2－12－21
TEL. 03－5395－3643
FAX. 03－3945－9128

野作雅章税理士事務所
税理士　野作雅章
〒123　東京都足立区江北 7－22－2
TEL. 03－3855－3800
FAX. 03－3855－3886

安井規雄法律事務所
弁護士　安井規雄
〒105 東京都港区新橋 4－24－3 エムエフ新橋404
TEL. 03－3578－0451
FAX. 03－3578－0453

有限会社 中村企画　▼ANIMATION ROOM　▲DESIGN ROOM
Animation Director
代表　中村泰敏
〒171　東京都豊島区南池袋 3－9－3 池袋ハイツ201
TEL. 03－3985－0026
FAX. 03－3985－1707

BIOSPHEREINC.
バイオスフィアインク
伊東喜久子
〒101 東京都千代田区神田佐久間町 2－11 AOIビル6F
TEL. 03－5821－4832
FAX. 03－5821－4788

れた。長野冬季オリンピックのJOC専務理事でもある八木本会会長からスキーアルペン競技のスタート地点問題、日本選手の活躍による金メダルの期待など最新の情報も披露され、国際的冬季競技の旭川への誘致など将来の希望についても語られた。久し振りの東京事務所OBの方との話などで和気あいあい。

道内旅行は八月二十七日、参加者二十四人が大型バスで最初の目的地、上川アイスパビリオンに向かう。ここから渓谷の道を走り、銀河の滝、流星の滝などの景勝を眺めて、ロープウェイで黒岳五合目、さらにペアリフトに乗り換えて七合目まで行き、間近に見える黒岳山頂及び周辺の山々の大パノラマを眺めることができた。周辺の樹林は一部紅葉して北国の山にはもう秋が訪れていた。

バスは大函を経由して大雪ダムの国道分岐点から二七三号となり然別湖へと走る。この道は私として初めて通る道だが、人家の全く見えない森林を切り拓いた坦々とした道が続き、前後に車の姿はほとんどない。稀にしか対向車のない快適なドライブを楽しみながらも「観光開発、産業振興と自然保存、経済性」について考えさせられた。

やがて目的地の然別湖ホテル福原に到着した。数軒のホテルがあるだけの静かな湖畔のホテル。眼前の山は展望山という名だが湖面に映ずる山と一体にして眺めると、微笑みを浮かべたような優雅さと、美しい唇のような妖しさ……、人はみな「くちびる山」と呼んでいたが正にそのとおりであった。

翌日は富良野に向かう。狩勝峠の展望台から雄大な十勝平野の眺望を楽しみ、富良野麓郷の森に向かう。ここはラベンダーの里だ。バスはハーブビルふらのフラワーランド、ファーム富田、美瑛北西の丘などいずれもラベンダーの紫色、赤、黄と多彩な花、麦、馬鈴薯、ビートなどの作物が織りなす丘陵地帯の景観はすばらしい。もう数十年前に列車の車窓から眺めた沿線の印象とは全く色も姿も変わっていた。次のシーズンに期待を。

これには地元の関西旭川会、東京旭川会など各地の旭川関係者の間でバンザイの大合唱となった。

▽第四戦（準決勝）までコマを進めたものの残念ながら敦賀気比に3対2で惜敗した。しかし思わぬ旭川旋風を巻きおこしたことは確か。半年雪の旭川でもやればやれることを立派に証明したもので主催者代表の中江利忠朝日新聞社長も、大会の締めくくりの挨拶の中で、とくに旭川実業の戦いを讃えた。旭川市当局はじめ関係筋は郷土のPR作戦に人気スポーツなどで全国的に名を広めることをもっともっと考えていただきたい。

▽かつて旭川中学（現、東校）出の元巨人軍ピッチャー、ビクトル・スタルヒンや大相撲の関脇旭川、横綱北の富士などの活躍がいかに旭川の名を高めたか。市当局も外部の知恵を入れて旭川PR大作戦を具体的に考えてはどうだろう。銀座街頭でラベンダーの花やトウキビをばらまくより効果はあるはずだが。……。

▽さて、今号は北の散人先生のエッセーをお届けする。北都、旭川は文化的イベントに弱い。理由はおカネと知恵を投入しないからだ。おカネのあるものはおカネを。おカネのないものは労働の手や知恵を出しあわないと何事もでき上がらない。

▽東京に住む実業家Q氏。生まれは和歌山だが、戦後のビル・ブームで大いに儲けた。バブルのはじける寸前に、所有のビルのある部分を売った。Qさん、随分儲かったろうにと、ヒトの懐ろ具合を胸算用していると、彼は地元の自治体に合計二億円を寄付した。さすがに紀伊國屋文左衛門のお国柄と、びっくり仰天。

▽そこで私もと、平成九年夏のドリームくじを四〇枚買って、わが郷里旭川に寄付をすることを夢見ていたのだが、当たるには当たったもののドン底の三百円が四枚とその上位の三千円一枚当たっただけ。クジ代が一万二千円で賞金が計四千二百円ナリ。むろん大赤字でありました。イマニ見テオレ。

▽女子柔道の恵本裕子選手がアメリカ南部のアトランタ五輪で戦っているのを柔道部員ら三十人が徹夜で校長室のテレビ観戦、はるかに声援を送ったとある。新井之明校長も柔道部員らと校長室にこもったとある。これは近頃珍しいスポーツ・エピソードといえた。多分、旭川の地元マスメディアも一斉にとりあげたと思うが……。

▽今号の会報は編集委員の都合で合併号とせざるを得なかった。ご了承を願いあげる。（Z）

編集委員＝田村昌士、大久保藤次郎、須藤智恵子、高橋文子、伊藤一男（順不同）

編集後記

◇故郷振興にはまず知名度を高める必要がある、とばかりこのところわが旭川もあの手この手の知名度作戦に奔走。その一つが旭川拉麺（ラーメン）のPR。平成九年五月三一日、テレビ東京12チャンネルで突然に――。

◇夕方の「土曜スペシャル」に「味で勝負、こだわり料理人本日開店の味」と銘打って「究極のスープ旭川ラーメン」ときた。旭川人として「ガンバッて」と叫びたいがはたして大雪山麓に届くかどうか。

◇北海道といえばなんといってもPRがきいているのは道都の札幌ラーメン。しかもお江戸まで上京するには会津の喜多方ラーメンはじめ東北、北関東に数々の著名ラーメンがあるから、わが旭川ラーメンは生き残れるものかどうか。大手の粉メーカーがついているらしいが、きびしいよ。

◇新規開発には時間とカネがかかるもの。ならばすでに世に出た作家、歌手などを活用させていただくのも方法。平成九年度の直木賞を得た「鉄道員（ぽっぽや）」の浅田次郎さん。「鉄道員」にはエゾ弁がいっぱい。

◇「いいふりこきゃがって」「はんかくさい」「そったらこと」「ばかこくでない」「めんこい」などなど。浅田さんは自衛隊に二年間入隊しているので、この間、札幌か旭川に転勤したものか。活字で正調エゾ弁、しかもこの方言が作品の中で鮮やかに生きている。恐れ入りました。

◇うかつだったが、NHKテレビ1チャンネル「おかあさんといっしょ」で八年間にわたりうたのおにいさん役を務めたシンガー・ソングライター、坂田おさむさんは旭川の出身。六月十八日深夜番組に旭川市光陽中学時代のマンドリン部の仲間三人と出演、光陽中の校舎を背景に様々な思い出話を語った。坂田さん、ふるさとのためにも頑張って――。

◇おくればせながら、関西旭川会会長の浅野寛さん（株式会社アサノ会長、元大阪府木材協組理事長）は平成七年十一月十四日、がんのため死去、七十四歳。旭川市生まれ、神戸経済大卒。後任の関西旭川会会長に島影恒治さんを選んだ。関西の皆さんと一度、交流の集いを開催したいもの。

▽あれからもう二年以上になる――。高校生の球宴、第77回全国高校野球選手権大会は平成七年八月、晴れの甲子園で開幕。北北海道を勝ちぬいた旭川実業は、第一戦で四国の雄、松山高を5対4で破り、さらに第二戦は鹿児島商に15対13で大逆転。さらに第三戦では名門銚子商を4対2で敗った。

■訂正

前号（17号）の「旭川観光大使」のうち小林光一氏は将棋名人とあるのは囲碁名人に、池袋孝氏とあるは池永孝氏に訂正してお詫びします。